

(9) 中学校技術家庭部会

会 長 高橋 大輔 (西土佐中)
副会長 田村 悟 (中村西中)
事務局 志磨村 太陽 (中村中)

1. 研究主題 「 実践的な姿勢を持ち、主体的・対話的に学べる生徒の育成 」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和7年 5月7日(水)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	四万十市立 中村中学校	7名参加
8月4日(月)	四万十市教育研究会 夏季研修会 (幡多地区技術・家庭科研究会 夏季研修会) 内容：★技術分野 (升づくり) ★家庭分野 (調理実習・裁縫実習) 報告者 志磨村 太陽教諭(中村中)	宿毛市立 宿毛中学校	★技術分野 5名参加 ★家庭分野 5名参加 合計10名参加

3. 各教科外・領域、各種部会で独自に項を起こし取組を紹介

I ★技術分野

材料と加工の学習における加工技術向上のための研修

①. 研修の目的

技術・家庭科(技術分野)「材料と加工」の学習指導において、生徒が安全かつ正確に加工技術を身に付けられるよう、教員自身の加工技術および機器の扱いに関する技能向上を目的として研修を実施した。特に、木材加工における接合技術と電動工具の活用方法について理解を深めることを目標とした。

②. 研修内容

本研修では、木製の**升(ます) **の製作を題材とし、実際の加工工程を通して技能の習得を行った。

主な研修内容は以下のとおりである。

- トリマーを用いたほぞ加工の実習
- トリマーを作業台に固定し、材料をスライドさせながら同一寸法の部品を量産する方法の検討
- 升の組み立ておよび底板の取り付け作業

③. 研修を通して得られた学び

トリマーによるほぞ加工では、手作業に比べて加工精度を高めることができる一方、作業台への固定や材料の送り方が仕上がりに大きく影響することを実感した。また、材料を量産する工程において、わずかな幅のずれが組み立て時に影響し、升がぴったりと組めない場面が見られた。参加者からは、

○「升の幅が少しずれてしまい、きれいに組めなかった」 ○「底板を敷く作業が難しかった」

といった感想が聞かれ、寸法管理の重要性や、加工精度が完成度に直結することを再認識する機会となった。



④. 課題と改善点

今回の研修を通して、トリマーの固定方法や治具の調整が不十分であると、加工精度にばらつきが生じることが明らかになった。今後は、
○作業台にトリマーを安定して固定すること
○材料をスライドさせる際のガイド位置や高さの微調整を丁寧に行うこと
○加工前に試し削りを行い、寸法を確認する工程を徹底すること
などを意識し、部品を安定して量産できる環境づくりを進めていく必要がある。

⑤. 今後の授業への活用

本研修で得た知見を授業に生かし、生徒が安全に電動工具を扱いながら、精度の高い加工に取り組みやすいよう指導内容を工夫していきたい。また、失敗事例も含めて指導することで、加工の難しさや改善の視点を生徒に伝え、主体的なものづくりにつなげていく。



II★家庭分野

家庭科における実習技術向上のための研修

<実施内容>

四万十市の家庭科教員は1名であり、昨年に引き続き家庭科の臨時免許をもっている先生の市教研の加入はなかったため、家庭科分野の部会を開くことはできない状態であった。したがって、夏季休業中の自主研修として参加した幡多・四万十地区の技術・家庭科夏期研修会を四万十市の市教研の代わりとした。こちらの会では、市教研で加入できなかった臨時免許の先生も1名参加できており、一緒に研修を行うことができた。

①. 日常食の調理

午前中は、調理実習で取り扱うことができるレシピで1食分の献立を立て、調理を行った。ごはん・豚肉の甘酢炒め・蒸し野菜のサラダ・かきたま汁・フルーツポンチを調理し、焼くや蒸すの調理工程を取り入れ、蒸し野菜のサラダはドレッシングも3種類作った。

②. ティッシュBOXカバーの製作

午後は、いらなくなった衣服を活用した生活に役立つ小物の製作を行った。中学校の被服実習で取り扱う、まつり縫い、スナップボタン付け、不要になった衣服の活用などを取り入れることできるティッシュBOXカバーを作成した。

④. 感想

今年の幡多技術・家庭科の研修会では、臨時免許で家庭科を教えている先生方のための授業で活かせる研修を行うことができた。参加していただいた先生も、「一つ一つ丁寧に教えていただいたので授業のイメージを持ちながら学べ、指導するにあたって日頃不安に思っていたことを解消することができた」と自校で活かせる学びにつながったと答えてくれていた。



4. 今年度の成果と課題

I ★技術分野

【成果】

本研修を通して、トリマーを用いたほぞ加工の技能向上とともに、電動工具を活用した加工精度の高め方について理解を深めることができた。特に、作業台への固定方法や材料の送り方が仕上がりに大きく影響することを実体験を通して学ぶことができた点は大きな成果である。また、わずかな寸法のずれが組み立て精度に直結することを実感し、寸法管理の重要性を再認識する機会となった。量産工程の難しさや、底板の取り付けの工夫など、実践的な課題を共有できたことも今後の指導改善につながる成果である。

【課題】

一方で、トリマーの固定や治具の調整が不十分な場合、加工精度にばらつきが生じることが明らかとなった。安定した量産を行うためには、工具の確実な固定、ガイド位置や高さの微調整、加工前の試し削りによる寸法確認の徹底など、事前準備の精度向上が課題である。今後は、これらの点を改善し、安全かつ安定した加工環境を整えるとともに、失敗事例も教材化しながら、生徒の主体的な学びにつなげていく必要がある。

II ★家庭分野

【成果】

本研修では、家庭科部会が実施できない状況の中でも、幡多・四万十地区の夏期研修会に参加することで、市教研の代替となる実践的な学びの場を確保することができた。また、臨時免許で家庭科を担当している教員も参加でき、ともに研修できたことは大きな成果である。午前の「日常食の調理」では、1食分の献立作成から調理までを行い、「焼く」「蒸す」などの基本的な調理操作を確認するとともに、ドレッシング作りなどの工夫を取り入れた実践的な内容となった。授業でそのまま活用できるレシピや指導の流れを具体的に学ぶことができた点は有意義であった。午後の「ティッシュ BOX カバーの製作」では、まつり縫い、スナップボタン付け、不要衣服の再活用といった中学校被服分野の要素を取り入れた教材研究を行うことができた。授業をイメージしながら一つ一つ丁寧に学ぶことで、指導に対する不安の軽減や実践への自信につながったことも成果である。

【課題】

一方で、四万十市として家庭科部会を組織的に実施できていない状況は継続的な課題である。市内での情報共有や教材研究の機会が不足しているため、今後は地区研修会で得た学びをどのように市内へ還元するかを検討する必要がある。また、臨時免許の教員が安心して授業を行える体制づくりや、継続的に学べる研修機会の確保も重要である。今後は、実践報告や教材資料の共有などを通して、市内全体の家庭科指導力向上につなげていくことが求められる。